



2020年2月21日

各位

会社名 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング  
 代表者氏名 代表取締役 社長執行役員 秋山 雅孝  
 (コード番号：7774 JQ)  
 本店所在地 愛知県蒲郡市三谷北通6丁目209番地の1  
 問合せ先 取締役 常務執行役員 原 俊之  
 電話番号 0533-66-2020 (代表)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2019年4月25日に公表した2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の通期業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

### 1. 通期業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日） (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	3,080	106	112	86
今回発表予想 (B)	2,300	△300	△294	△351
増減額 (B-A)	△780	△406	△406	△437
増減率 (%)	△25.3%	-	-	-

なお当社は、第2四半期累計期間の業績予想を開示しておりません。

### 2. ご参考：前期の実績（2018年4月1日～2019年3月31日） (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	2,357	△349	△339	△333

### 3. 修正の内容とその理由

2020年3月期業績予想の主な内訳は次のとおりです。 (単位：百万円)

内訳	(参考) 2019年3月期 実績	修正前		修正後	
		金額	前年比	金額	前年比
自家培養表皮ジェイス	1,031	1,206	117.0%	893	86.6%
自家培養軟骨ジャック	372	615	165.3%	469	126.0%
再生医療製品事業	1,404	1,822	129.8%	1,363	97.1%
再生医療受託事業	835	1,101	131.8%	799	95.6%
研究開発支援事業	118	156	132.0%	138	116.7%
売上高	2,357	3,080	130.6%	2,300	97.5%
営業利益	△349	106	-	△300	-

通期売上高は、当初予想(前年比130.6%)よりも780百万円減少し、2,300百万円(前年比97.5%)となる見込みです。売上高の減少に伴い、営業利益は△300百万円、経常利益は△294百万円、当期純利益は△351百万円となる見込みです。

当社は、2020年3月期において、再生医療製品事業、再生医療受託事業、研究開発支援事業の各事業において売上拡大に努めてきました。業績予想に対する第3四半期までの遂行状況が非常に厳しい中、挽回策を検討・推進するとともに、不確定要素の多い当社事業における今期決算着地の見極めを図ってきました。その結果、残りの期間での計画達成が困難との判断に至り、本日、

以下の理由により当初予想を修正することを決定しました。

① 再生医療製品事業

自家培養表皮ジェイスは、先天性巨大色素性母斑の待機患者の治療が一巡したことによる需要減の影響が想定以上に大きかったことが、修正の主な要因です。また重症熱傷も昨年に引き続き患者の発生が少ない状態が続き、受注が伸びませんでした。重症熱傷は冬季に急増するケースがあり、今期の傾向を見極めるのに時間を要しましたが、現段階において上記の販売減を挽回するまでには至らないと判断し、通期売上高を 1,206 百万円（前年比 117.0%）から 893 百万円（前年比 86.6%）に修正しました。

自家培養軟骨ジャックの売上高は、人工コラーゲン膜の導入による低侵襲化・移植手技の簡便化を実現し、新規施設からの受注も増えるなど、着実に伸びています。加えて、富士フィルムの 3 次元画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を活用した膝診断との相乗効果を追求するといった施策による更なる売上拡大に取り組みました。しかしながら計画した目標値に対しては遂行が遅れており、第 3 四半期累計期間の売上高実績に最近の業績動向を勘案し、通期売上高を 615 百万円（前年比 165.3%）から 469 百万円（前年比 126.0%）に修正しました。

② 再生医療受託事業

再生医療等製品の開発コンサルティング及び開発製造受託業務は、受託した案件を一つ一つ前進させているものの、一部で詳細仕様決定や契約締結、技術の移管等に想定以上の時間を要しており、計画に対して収益獲得が遅れています。当社は引き続き今期中の売上最大化を目指し顧客との開発目標達成に向けて取り組みますが、第 3 四半期累計期間の売上高実績及び各受託案件の現時点での進捗状況を勘案し、通期売上高を 1,101 百万円（前年比 131.8%）から 799 百万円（前年比 95.6%）に修正しました。

③ 研究開発支援事業

研究用ヒト培養組織ラボサイトシリーズの売上は着実に伸び、今年 9 月に販売開始したヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞「F-hiSIEC（エフハイシーク）」も順調に立ち上がっています。ただし計画した目標値に対しては遂行が遅れており、第 3 四半期累計期間の売上高実績に最近の業績動向を勘案し、通期売上高を 156 百万円（前年比 132.0%）から 138 百万円（前年比 116.7%）に修正しました。

当社は、経費の圧縮に努めていますが、以上のような売上高の減少による影響をカバーするのは困難と判断し、営業利益を△300 百万円、経常利益を△294 百万円に、また繰延税金資産の取り崩しが必要と判断し、当期純利益を△351 百万円に修正しました。

（業績予想に関する注意事項）

上記に記載しました予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、状況の変化などにより上記予想数値と異なる場合があります。

以上